



今年も5・6月の2、3週間、教育実習生として3名の卒業生が母校の教壇に立ちました

大学で学んでいること、研究していること

おもに公衆衛生学を中心に研究しており、卒業論文のテーマは「大学生における歯・口腔の意識・関心に関する研究」です。大学院でも引き続き歯科に関する研究を行いたいと考えています。

今後の目標は？

保健体育の知識・技能を持った特別支援教諭になることです。一人一人の生徒に合った指導を行い、心のケアができる教員になりたいです。

在学時代、豊総で頑張ったことは？

陸上競技部の活動です。私は短距離が専門でしたが、豊総では長距離も全員行わなければならないので、長距離が走れる身体を作ったり、日々厳しいメニューをやり遂げたりと、全力で頑張りました。

在学時代、豊総で一番印象的なできごとは？

沖縄の修学旅行です。50年に一度の大雨に見舞われ、ちゅら海水族館、マリンスポーツ、3つ星ホテル、全てが無しになり、行程の半分を民泊で行いました。楽しみにしていたマリンスポーツができずショックでしたが、今では良い思い出です。

教育実習生として母校で過ごした気持ちは？

先生方や生徒たちの温かさ、豊総らしい雰囲気を感じて、豊総で実習させていただいて本当に良かったなと思いました。総合学科と工業科それぞれ、生徒一人一人が専門的なことや自分の進路や目標に合わせた学びを行っているため、個性あふれる生徒たちと出会えて楽しい教育実習でした。

最後に後輩たちへメッセージを

高校生という時期は人生で一度きりです。この「今」を大切に、青春したり、勉強・部活を頑張って、高校生活を悔いのないよう過ごしてください。



荒木 琉利さん
川崎医療福祉大学 医療技術学部

大学で学んでいること、研究していること

おもに機械の原理、それによって作られる材料について学び、強度、軽さ、生産力などの面から新しい技術に応用できるプラスチックを研究しています。

今後の目標は？

大学卒業後は社会人として一度機械系の会社に就職して、現場でしか得られない経験を沢山積みたいたいと考えています。そしてそこで得た経験を有意義なものとするために、最終的には教育の道に進み、母校で生徒たちにより実践的な教えをできればと考えています。

在学時代、豊総で頑張ったことは？

電機応用工学科では資格を持つことで他とは違うアドバンテージを取れるため、特に資格の勉強を頑張りました。また、日頃から挨拶を心がけていましたが、挨拶をすることで第一印象に大きな差が生まれるので、身に付けていて良かったと強く思っています。

在学時代、豊総で一番印象的なできごとは？

2年生の文化祭での演劇です。大学では文化祭は任意参加であるため、高校時代クラスのみなどで一緒に一つのことを創りあげた達成感は、今でも忘れられない思い出です。

教育実習生として母校で過ごした気持ちは？

懐かしさを感じる反面、授業でICTを活用したり、校則が変わっていたりと変化に戸惑う日が多々ありました。しかし「挨拶ができる豊総生」という姿勢は受け継がれており、今は母校で教育実習ができて嬉しい思いで一杯です。

最後に後輩たちへメッセージを

道筋を決め、一步一步進むことが一番大切です。人は出来ないことが急に出来るようにはなりません。目標に向かって全力で頑張ってください。応援しています。



小林 馨さん
金沢工業大学 工学部

大学で学んでいること、研究していること

卒業研究として、「バイオメタネーション」について研究しています。簡単に説明すると、二酸化炭素と水素で合成メタンを作り、作った合成メタンを都市ガス(エネルギー)として利用します。利用すると、もちろん二酸化炭素が排出されますが、排出された二酸化炭素と水素を再び合成し、合成メタンを生成します。この繰り返しにより、実質的に二酸化炭素の排出量を0(ゼロ)を目指します。このメタネーションをバイオ(微生物)によって反応を起こさせ、2050年までにに向けたカーボンニュートラル達成へ向けて取り組んでいます。

今後の目標は？

大学卒業後は高校教員を目指しています。私は、高校・大学で土木及び環境分野について学んできました。昔は、インフラ整備に注力した分野でしたが、近年では、単なるインフラ整備ではなく、地球温暖化やマイクロプラスチックをはじめとする環境問題にも考慮できる技術者育成が必要とされています。そのため、高校教員になり、グローバル化が進む社会の中でも活躍できる技術者育成がしたいと考えています。

在学時代、豊総で頑張ったことは？

部活と勉強の両立(メリハリをつけること)です。そのために、テスト2週間前からテスト日程を基に勉強計画を立てることを心がけました。苦手科目を中心に取り組むのはもちろん、テスト日程から逆算して取り組むようにしたことで、満足のいく点を取れるようになりました。メリハリをつけ、勉強をするときは勉強して、部活に力を入れる時は部活に集中して取り組みました。

教育実習生として母校で過ごした気持ちは？

豊総の生徒は元気に挨拶してくれる、という点に改めて気付きました。どの生徒も廊下ですれ違うと笑顔で「おはようございます！」や「さようなら！」といったように元気に挨拶を返してくれました。このような生徒たちがいたからこそ、毎日が楽しく過ごせました。

最後に後輩たちへメッセージを

「迷ったらやってみる」ということを伝えます。「当たって砕けろ」という言葉があるように、やろうか迷っている時に何もしないと、得られるものが一つもありません。しかし、行動に起こしやってみることで、上手くいけば成功体験が、上手くいかない場合は、次へのヒントや気づきが得られます。だからこそ、高校生の間は積極的に物事に取り組み、様々な経験を積んでほしいです。



石谷 嶺治さん
大阪工業大学 工学部

卒業生の今 ～社会人編～

本年度の学校 PR パンフレットに卒業生のコーナーを新たに設けました。こちらでも紹介させていただきます。

野田 岳水さん

2015 年度卒業

環境建設工学科

勤務先 (株) 中川工務店 建築工事事務



建築工場の現場監督をしています。工事現場が問題なく進行するようマネジメントをする仕事です。建築分野のみならず、電気設備など幅広い知識が必要で毎日が勉強です。また、多くの人と関わりながら工事を進めなければなりません。責任重大な仕事ですが、工事を終えた際にお客様から感謝の言葉を頂いた時はとても嬉しいですし、「もっとより良いものを提供しよう!」と意欲が湧いてきます。

現場監督の仕事には建築施工管理技士という資格が必要ですがその勉強を高校在学中から学べたのが良かったです。また授業で実際に測量機器の使い方を学んでいたため、就職して即扱うことができました。インターンシップを通して地元企業で就労体験ができるのも有難く、卒業後の就職先選定に役立ちます。私の就職のきっかけにもなりました。今後の目標はより知識を増やすこと。1級建築士の取得を目指しています。そして日々働く中で、生まれ育った地元への恩返し・活性化に貢献していきます。

由本 健太郎さん

2021 年度卒業

電機応用工学科

勤務先 富士電機株式会社 神戸工場



私が所属する神戸工場では、配電盤、UPS (無停電電源装置) などを作っています。仕事も様々なので覚えることが多いですが、その分、成長をものにできます。技術力を向上させられる職場です。

私はものを分解して仕組みを理解したり、電気の力で動くようにしたりすることが好きで、電機応用工学科に入学しました。高校で学んだ電気基礎や製図の内容は、仕事の多くの場面で役立っています。

豊総では、電気系と機械系どちらも学ぶことができます。機械加工など専門的な機械系実習にも取り組めて、ものづくりが好きな私には魅力でした。電気や機械の幅広い知識があれば一つの製品について色々な見方ができます。このことは今の仕事に生かされていると実感しています。また、身に付けたシーケンス制御や機械加工の基礎知識を最初の研修で発揮し、研修で上位の成績をあげて希望どおりの配属先に就くこともできました。これからも『知らない』を『知っているにする』を心に留めて、ものづくりを深めていきたいです。

足立 七海さん

2018 年度卒業

総合学科

勤務先 (株) 新日本海新聞社 但馬支社報道課



鳥取県全域と美方郡(新温泉町と香美町)で発行する地方紙の記者をしています。主に紙面のネタになりそうな事柄を探して、取材・写真撮影して文字起こすことが記者の仕事です。今は豊岡市の隣、香美町の担当で、町政やイベント、地域の小さな出来事などネタを探して毎日、地域内を車で走りまわっています。その他にも、警察と消防署も担当していて事故や火事、啓発キャンペーンや消火訓練などの記事も書いています。

まだ2年目なので苦労することを挙げていけばきりがありませんが、自分が「知らないこと」をその道の専門家に教えてもらって、読者に分かりやすく伝える必要があるため、限られた時間で自分の中に知識をインプットするのに苦戦しています。言い換えると、自分の興味の有無に関わらず日々新たな知識が吸収できる部分がおもしろいところでもあります。世の中を大きく動かす起点となるような仕事には辿り着けていませんが、取材相手からの「ありがとう」「良かったよ」などの声や自分が書いた記事がきっかけで物事が良い方向に進んだ時、徐々に地域の中で信頼関係が築けているのを実感する時などにやりがいを感じます。

元々、メディア関係や記者職を志したきっかけが、高校1年次の「産業社会と人間」の時間に戦場ジャーナリストの山本美香さんのドキュメンタリーを見て憧れたことから始まっているので、産社の時間や担当教員の松元先生がいなければ今の私はないです。

また、自分の目指す進路に合わせて授業カリキュラムが選択できたのも大きかったです。自分が希望して選択しているからこそ自主的に積極的に授業に取り組み、授業に対する意欲やモチベーションも高かったように覚えています。入学時から4年制大学には行きたいと思っていたので総合のカリキュラム的に進学校の受験生たちと戦えるのか、などの不安もありましたが、川中先生の数学朝補習や受験科目の放課後補習、夏休み補講など学校で丁寧に対応いただき、大学受験に向けた学習環境に不安はなかったです。補習では似たような進路を目指している子たちが集まっていたので、自然と学習意識もあがり、なにより楽しく3年間、受験対策に取り組めたので感謝しています。高校進学時には近隣の進学校と迷いましたが、振り返ってみると豊総で良かったと心から思っています。

※足立さんの記事につきましては、ご本人から頂いた原稿の全文を(学校 PR パンフレットでは割愛した部分も)掲載しています。